

モデル事業名	農家・市民の協働による地域【緑・農・住】組織づくり
活動団体名	竹林まちづくり推進協議会、JA松阪
ホームページ	
所属／担当者名	竹林まちづくり推進協議会（事務局：JA松阪 資産管理センター） 川端 勝
連絡先	0598-28-2111 shisan@ja-matsusaka.or.jp
活動地域	三重県松阪市山室町竹林地区（松阪市中部台運動公園隣接地）

● 活動地域の概要

- * 竹林地区は、松阪市中部台運動公園に隣接し、自然および各種施設などの環境には恵まれた地区である。
- * 一方、地方都市の市街化区域の末端に位置し、農家も高齢化が進み、通常の方法での営農継続が困難な状況である。
- * 将来の地域管理の危惧から、農地を周辺に居住する市民のレクリエーションの場に提供し、都市住民との協力による地域維持の糸口を見つけようと、地元農家がJA松阪の協力のもと竹林まちづくり推進協議会を設立した。
- * 平成19年から農業体験農園（練馬方式）を、地元農家の集団体制によるボランティア活動として実施してきた。
- * このような農業体験を通じた地域コミュニティへの参加を機に新たに居住する者も出つつある状況である。



【 主な活動拠点 】



【 高齢化などによる耕作放棄地 】



【 農業体験農園の様子 】

● 活動地域の課題

- * 市街地の末端に位置しており、高度成長期に開発された古い住宅地は高齢化が進む中で空洞化が目立ってきた。
- * 一方、農家側でも同様に高齢化が進み、現在の農業生産性のもとでは営農を継続する後継者の確保は困難となりつつあり、耕作放棄地が増大している。
- * こうした中、従来からの地域コミュニティの先行きは大変厳しくなっており、従来の発想を超え、非農家の市民、大都市圏からのUJIターン、二地域居住者、高齢者の受け入れ等により、農地・地域の管理を図る必要がある。
- * 試行してきた農業体験農園の充実と、農を介した地域コミュニティの形成を図る必要がある。
- * ボランティア活動にとどまらず事業としても自立できる農業体験農園の運営を目指す必要がある。
- * 広範な市民や大都市圏等の住民へ情報発信、および農業体験等により、活動への理解者を掘り起こす必要がある。
- * 将来に亘って地域の緑・農・住を総合的に管理できる、しかも自立した組織づくりが必要である。

● 活動の内容

・平成21年度

- * より広範な市民や大都市圏等の住民への情報発信と農業体験バスツアーの実施
 - 竹林まちづくりシンポジウム（平成21年9月11日開催：名古屋市中区栄の昭和ビルにて）
基調講演：早稲田大学大学院教授 有賀隆氏
パネルディスカッション：都市ジャーナリスト 森野美德氏、国土技術政策総合研究所 大竹亮氏、カズサ愛彩ガーデンファーム 河井良幸氏、都市農地センター 佐藤啓二氏
 - 竹林まちづくり農業体験バスツアーの実施（名古屋駅発着の農業体験日帰りバスツアー）
- * 試行して来た農業体験農園の充実
 - 竹林まちづくり第1回ワークショップ（平成21年11月6日開催：JA松阪 花岡店にて）
講師：東京都 農業体験農園園主会会長 加藤義松氏
 - 竹林まちづくり第2回ワークショップ（平成21年12月9日開催：JA松阪 本店にて）
講師：千葉県 カズサ愛彩ガーデンファーム理事 河井良幸氏
 - 竹林まちづくり農業体験農園『収穫祭』（平成21年11月29日開催：農業体験農園現地にて）
参加者：農園会員（家族）、地元農家（家族）、竹林まちづくり役員、および、松阪市長 山中光茂氏
- * 自立できる事業計画とそれを担う組織案の作成
 - 第3回竹林まちづくりワークショップ（平成22年2月開催予定）

● 活動の成果

・平成21年度

* より広範な市民や大都市圏等の住民への情報発信と農業体験バスツアーの実施

○ 竹林まちづくりシンポジウム

有賀隆早稲田大学大学院教授の基調講演、パネルディスカッションにより『新・アグリライフ』という考え方による地域の活性化について討議し、竹林まちづくり活動の方向性を確認するとともに、広域的な情報発信を行った。

- ・情報発信の必要性を確認すると同時に、シンポジウム開催は有識者等とのネットワークを構築する契機となった。



【シンポジウム】

○ 竹林まちづくり農業体験バスツアーの実施

名古屋市周辺の市民を対象に日帰りバスツアーにより『竹林農業体験農園』にてサツマイモ掘り・柿の収穫などの農業体験を行っていただき農を介したコミュニティの輪を広域的に広げる試みを実施した。

- ・はじめての試みでもあり、農業体験をメインに企画したが、参加者からは都市部からの移住者受入体制や二地域居住への対応などについても質問があった。



【農業体験ツアー】

* 試行して来た農業体験農園の充実

○ 竹林まちづくり第1回ワークショップ

加藤義松氏による『練馬農業体験農園』等の先進地の事例紹介をもとに、農を介したコミュニティあふれる農園にするための検討を行った。

- ・農園会員からイベントの準備などに参加したいとの意見も出ました。



【第1回ワークショップ】

○ 竹林まちづくり第2回ワークショップ

河井良幸氏による『カズサ愛彩ガーデンファーム』の農業ビジネスとして成功している事例紹介をもとに、会員の確保およびボランティア活動から脱却できる活動費の確保のための宣伝方法などの検討を行った。

- ・農園会員からボランティアでは気の毒だし、楽しませてもらっているので会費はもっと払ってもいいとの意見も出ました。



【第2回ワークショップ】

○ 竹林まちづくり農業体験農園『収穫祭』

例年は地元農家から農業体験農園会員に対するおもてなしとして行われてきた『収穫祭』を、準備段階から実施・後片付けまで農家と会員が協力して行い、より充実したコミュニティの場とした。

- ・活動に対する地元行政の理解が深まったこともあり松阪市長山中光茂氏も参加していただき玄米餅の餅つき等を実施した。
- ・農園で収穫したサツマイモの石焼体験なども行ない、農家・会員ともに家族そろって楽しむことができコミュニティが深まりました。



【収穫祭（市長も参加）】

● 今後の課題及び展望

・課題

- * 松阪市のような地方都市においても農業体験農園に対する関心が高くなってきたが、需要を掘り起こすための宣伝活動がまだまだ不十分である。今後はより広域的な宣伝活動が重要である。
- * 農を介した地域コミュニティ形成を主たる目的に活動を行っているが、市街化農地の有効利用という側面もあるため、新たな公と位置づけるためには地元行政の更なる理解と協力が必要である。
- * 持続可能な地域コミュニティとするため地元農家はボランティア活動から脱却した高度な対応が求められる。農家の古き良き伝統は守りつつ、非農家の市民、大都市圏からのU J I ターン、二地域居住者、高齢者などが、もっと気軽に地域に溶け込める環境の整備が必要である。

・展望

- * 活動地域・活動拠点を広域化するとともに、同様の取り組みを行なっている他地域とのネットワーク化を図る。
- * 持続可能な地域コミュニティ形成の中心となれる組織とするため、まずは現在取り組んでいる農業体験農園の収支改善（ボランティアからの脱却）を図る。併せて農園会員（市民）の活動への参画を図る。
- * 従来から活動と関連があった食育活動（地元小学校・幼稚園・保育園との連携）の展開を図る。
- * 松阪市周辺および大都市圏等からの移住者等の受け入れができる面整備（家庭菜園・ガーデニング等を気軽に楽しめる住宅地整備）を推進する。